

三九八二番

春花はるはなの うつろふまでに 相見あひみねば 月日つきひ数よみつ
つ 妹待いもまつらむそ

立夏りつか四月、既にすで墨日すみじつをへ経へぬるに、由なほし未いまだ霍ほと
公鳥とぎすの喧なくを聞きかず。因よりて作つくる恨うらみの歌うた二
首

三九八三番

あしひきの 山やまも近ちかきを ほととぎす 月立つきたつま
でに なにか来鳴きなかぬ

三九八四番

玉たまに貫ぬく 花橘はなたちばなを 乏ともしみし この我わが里さとに
来鳴きなかずあるらし